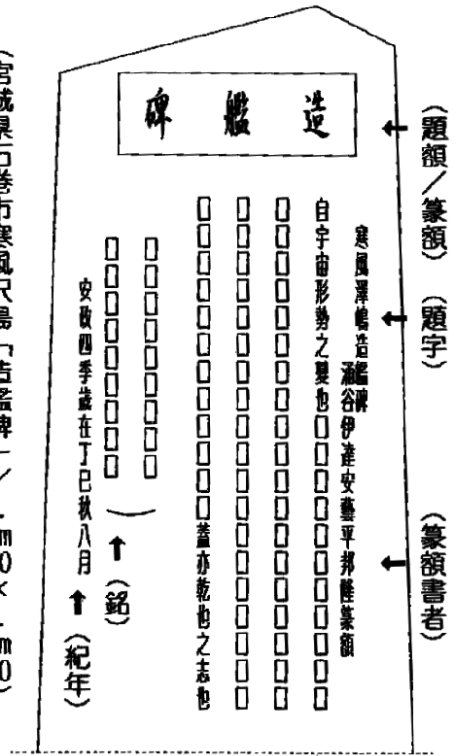


# 墨堤の碑林

## ～石碑こぼれ話～

墨田区文化財調査員 中野 日出夫

(宮城県石巻市寒風沢島「造船碑」/H.2m30×W.1m20)



- 墨田区内の寺社には多くの石碑が林立しています。とくに北部では墨堤界隈に、南部では回向院に集中しています。
- 「石碑」は素材が石材であることは当然ですが、「碑」となると、限定的に観察しなければなりません。
- 「碑」は「いしづみ」と訓じられるだけあって、「石」に「文」が刻まれていなければなりません。「文」がない場合は単なる標石と呼ばれます。
- 石碑の要件には次のものが必ずです。
- a 「序」 個(故)人や事業の功績・人となり・家族関係・生没年などを記載。
  - b 「銘」 韻文の吉祥句や対句(四字〜七字)が並ぶ。
  - c 「紀年銘」 和暦で建碑年月を記載。
  - d 「題額」 碑の上部に右横

- e 「選者・書者・刻者」 碑の最後尾に記載。これらを備えた名碑が区内には数多くあり、私の選ぶものとして次の四点を紹介します。
- ① 墨堤植桜之碑(隅田公園) 篆額は榎本武揚。
- ② 天下之糸平碑(隅田川神社) 題字を表面に大書し、その他を全て碑陰にした異色の石碑で、伊藤博文の揮毫、刻者は名工宮龜年です。
- ③ 吟香岸田翁碑(隅田川神社) 画家岸田劉生の父の一代記。書家日下部鳴鶴の書で、米国宣教師ヘボンも登場します。
- ④ 山村一蔵先生碑(長命寺) 岸和田藩士山村一蔵の一代記で、題字は明治の美術行政官九鬼隆一です。

書で篆字のものが多く、「題字」は序に先立って、碑の主題を掲げる(題額と題字を同時に書すことは稀)。

その1 乾拓 蠟墨を用います。時間のない時や一部分を知りたい時などに用います。

その2 湿拓 文字等の鑑賞や碑面の複写保存のために、練墨とタンポを用いた、極めて習熟の要る高度な技法です。これにも「鳥金拓」と「蟬翼拓」の二種があります。

両技法とも画仙紙を用います。現在では碑面や周辺を汚す人がいるために、所有者・管理者が許可しない例が多いです。

次に石材の話に移しましょう。よく知られているのは根府川石ですが、これは主に墓石に使われます。また、御影石もありますが、碑には馴染まないようです。

幕末から明治時代にかけて多く用いられたのは、今回の東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市在の井内(現在表記は稲井)の地で産出される井内石でした。これらは、鉄道敷設までは千石船で江戸(東京)に運ばれ、仙台石と称され、石碑材として多用されました。前記の墨堤植桜之碑・天下之糸平碑・吟香岸田翁碑や区内の多くの石碑はほとんどが井内石です。その内、最も大きいものは両国橋児童遊園にある碑高6メートルの「表忠碑」(大山巖揮毫)です。石碑調査の面白さの話題を一、

二挙げます。

前記、山村一蔵先生碑に「瑞人加特利」と「徳學士華格納爾」(拓影参照)が登場します。この二人の外国人を追い求めて、ずいぶん苦労しました。

結論は二人とも、明治初期の「お雇い外国人」で、日本の文明開化に大いに貢献した人物でした。正解は「スイス人カデルリ」と「ドイツ学土ワグネル」でした。

また、吟香岸田翁碑の「遍凡」は、日本初の英和・和英辞書を編纂したり、ヘボン式ローマ字を考案したヘボン宣教師です。彼自らは「平文」と署名しました。

最後に試問。回向院墓域に平田禿木(英文学者)の墓誌があり、そこにイギリスの「牛津大学」に留学したとあります。さて、この大学名は如何に？

石碑は世間の人様に読まれることを期待して誇らしく起立するものですから、是非ともその行間・裏面にあるものを仔細に読み取ってください。

